



賢いサーバの選び方 第2弾

最新ブレードサーバ カタログ

金融危機でIT投資が思うようにできない昨今、管理者やエンジニアは今まで以上に賢いサーバ選びが必要となる。前回ではサーバ選びの概論を解説したが、今回は今が旬のブレードサーバをカタログで取り上げる。



運用管理をシンプルに

NEC SIGMABLADE

ブレードサーバを導入すれば、集約したサーバの一元管理も容易になる。その点に注目したNECでは、運用管理の自動化ツールを用意し、さらなる利便性の向上を図っている。

管理ソフトウェアによる サーバ運用の自動化

NECの「SIGMABLADE」シリーズは、国内のブレードサーバ市場で、もっとも早くから中小規模向けのシャーシを投入したことで知られている。現行のラインナップでは、「SIGMABLADE-M」がこのカテゴリに分類さ

れ、6Uのコンパクトな筐体、100V電源への対応など、オフィス内設置に必要な条件を揃えている。中小向けといっても、性能面で大きく劣るようなことはなく、電源や冷却ファンの二重化構造などは上位モデルと共通だ。また、管理ソフトウェアの「Sigma SystemCenter」にも対応し、これを選択の決め手とするユーザーも多い。

SigmaSystemCenterは、ソフトウェアの配信やサーバの障害監視といった、さまざまな機能を統合した管理ツールだ。たとえば、負荷のピーク時に、同じサーバで稼働している仮想マシンを別サーバに退避させる、といった処理を自動化できる。システムを集約して、さらに管理工数も減らしたいという場合は、サーバとセットで導入するとよい。

■エンクロージャ

SIGMABLADE-M

100V 200V 最大ブレード数8

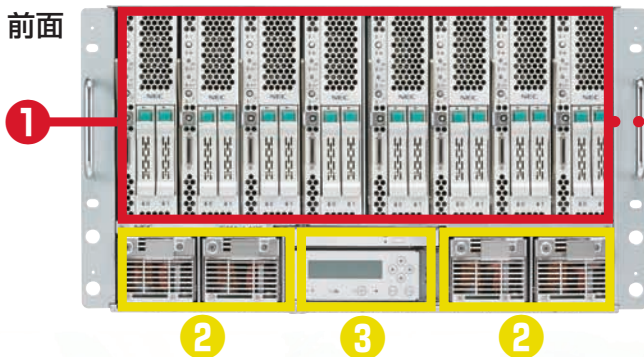


6Uのサイズに最大で8台のブレードを収容できるエンクロージャ。専用の電源モジュールと冷却ファンは、一般的なオフィス内でも快適に使えるように、静粛性を考慮して設計されている。また省電力性にも優れ、オプションのEMカードを組み込むことで、モジュール単位の電力制御が可能なる。

表1 SIGMABLADEのエンクロージャ

	SIGMABLADE-M	SIGMABLADE-H v2
高さ	6U	10U
ブレード最大搭載数	8	16
パワーサプライ	100V、200V	200V
参考価格	26万円～	40万円～

前面



①サーバブレード ②電源ユニット ③管理ディスプレイ

■サーバブレード

Express5800 120Bb-6

2コア 4コア 2ソケット FB-DIMM ECC対応 SAS



「SIGMABLADE」シリーズの主力モデルで、デュアルコアまたはクアドコアXeonプロセッサを最大2個まで搭載する。標準の仕様ではハードディスクを搭載せず、オプションでSASディスクを最大293GBまで追加可能。

■サーバブレード

Express5800 120Bb-6 d6

2コア 4コア 2ソケット FB-DIMM ECC対応



ディスクレス型のCPUモジュールで、OSのブートは外部ストレージからSAN経由で実行する。基本的な仕様は「120Bb-6」とほぼ共通するが、ディスク用のスペースを持たない分、メモリは最大48GBまで拡張できる。また、仮想マシンを実行する専用サーバとしても使えるよう、内蔵のUSBフラッシュにVMware ESXiを格納したモデルもある。